

## 1 学習に取り組んでいる主な分野

<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input checked="" type="checkbox"/> 平和	<input checked="" type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ( )	

## 2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校では、学校教育目標「共に未来を築く、心豊かで、かしこくたくましい子どもの育成」の実現に向け、体験的な活動を通して、自ら設定した課題の解決に取り組み、環境を守る大切さや海を活用した未来を考え、実践や発信を行う ESD を推進している。

具体的には、各学年の児童の発達段階に応じて、「海に親しむ」・「海を知る」・「海を守る」・「海を活用する」の四つの段階を設定した海洋教育を柱に、有明海に関する学習を行った。



## 3 特徴的な活動事例の紹介

### ○ 宝の海である「有明海」や世界遺産である「三池港」の持続発展にかかわる学習

校区を流れる「諏訪川」やその川が流れ着く、「ふるさとの海『有明海』」を軸に据え、総合的な学習の時間を中心に「海洋教育」を教育課程に位置づけた学習を行った。そして、大牟田市の持続発展（SDG 11）と「海の豊かさを守ろう」（SDG 14）のために、自分たちには何ができるかを考え、校内や保護者、市内、県外の地域に向けた発信や実践を行った。

具体的に、まず、1・2年生は、海洋教育の学習の基礎となる力を育成するために、生活科の時間に、公園に行って自然に親しんだり、植物を育てたりして、「自然の楽しさやよさ」について学習した。



3年生は、干潟観察活動や地域を流れる諏訪川探検を通して、有明海や諏訪川に住む生き物について学んだ。見つけた生き物から、生物の多様性やその保護について考えた。また、大牟田ロータリークラブの協力のもと、ガザミ（ワタリガニ）の標識放流を行い、豊かな海を守る活動について知り、参加することができた。発信の段階では、「海まつり」を開いて2年生を招待し、有明海の様々な生き物について紹介した。

4年生は、カヌー体験や諏訪川の水質の調査をして、川や海の環境について学んだ。また、諏訪川に棲む生き物についての講師の先生の話より、生き物が住みやすい環境を作ることが私たち人間の生活を豊かにすることであると学ぶことができた。

5年生は、三池港にゴミ拾いに行き、プラスチックゴミが多く落ちていることから、世界の海とつながっている有明海の環境が汚れていることを知り、有明海だけの問題ではないことを知ることができた。また、三池港・みなと振興室主催の「三池港クルージング」を通して、三池港の歴史や働き、世界の国々との繋がりを知ることができた。

6年生は、これまでに積み上げてきた「海を守ること」に対する考えを交流し、さらに理解を深めた。また、豪雨の際、有明海の潮位に伴って内水氾濫が発生し、校区が被災した経験から、防災・減災教育を行った。

学びの発信に関しては、それぞれの学年の取組は、校内のユネスコスクールの日に合わせて、校内掲示・見学を実施し、全校に広めることができた。また、学習発表会の際に学校の体育館に掲示して紹介することで、多くの方に見てもらうことができた。

さらに、6年生に関しては、大牟田ロータリークラブの支援のもと、台湾の2つの学校とオンラインで交流を行うことができた。また、佐賀県玄海町の玄海みらい学園と交流することができた。玄海みらい学園の子どもたちを天領小学校に招き、海を守ることについて交流した。子どもたちは、他地域の海の様子を知り、有明海が他地域や世界の海と繋がっていることに気付くことができた。

どの学年の児童も、E S Dを通して、多面的・総合的に考える力が育まれたと考える。

### 3 今後の活動計画

令和6年度は、E S Dにおいて、さらに海洋教育を柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1. 横断的・総合的なE S Dの実践をとおして、P D C Aサイクルを確立させながら、令和5年度までの実践をさらに高めていく。
2. 海洋教育の目指す資質・能力を明らかにしながら、系統的なカリキュラムになるよう見直しを図っていく。
3. 新しく交流の範囲を広げ、学びを深めていく。
4. 今年度培った、発信する技能や方法を見直し、改善の上で発信することで、自分たちの学びに価値があることを実感させる指導を行っていく。